

6.2 教育研究指導のあり方

進捗状況報告

前期課程修了のみを目的とする学生に対する教育指導体制については、従来より履修登録にあたって指導教員が学生と相談の上、履修登録を行うように指導してきた。2007年度の再編においても研究演習を主要科目の中核に位置づけ、修士論文の作成を指導しながら、高度専門職業人として社会に貢献できるような学生、あるいは、知的基盤社会を支えることができる人材の育成を目指している。また、研究演習の複数履修を許可して、領域を越えた広範な知識ならびに研究法を教授できるように努めている。

博士課程後期課程においては、2007年度より必修科目の「研究演習」のほかに、「特別研究」の科目を設けた。「特別研究」は「研究演習」や「博士論文作成演習」を補完する科目として、演習以外での研究上の指導を行い、学生の研究会・調査などへの参加、発表や論文投稿などに対して助言する。これによって、学生による学会発表（口頭・ポスター）や審査制度のある学術専門誌への論文投稿・発表が一層活発化することが期待できる。博士課程後期課程における博士論文の作成にあたっては、2007年度から学生が博士予備論文を提出した際に必ず副指導教員を置くこととした。

学内第三者評価

前期課程修了のみを目的とする学生への指導体制と、課程博士への支援体制が制度として充実したことが評価できる。今後、その具体的な成果を検証していくことが望まれる。